NPO 法人岡崎がくどうの会

第 58 回全国学童保育研究集会（20231104~20231105）レポート

【クラブ】（　　風の子クラブ　　）
【名　前】（　　鈴木美幸　　）

①2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。
第（　13　）分科会　（ 指導員の職場づくりと指導員組織　）
※全体会のみに参加の場合は、全体会の記念講演のタイトルをお書きください。

②この分科会を選んだ理由をお書きください。

専任 3 人体制・分割運営となってもう少しで 1 年が経つ。分割運営が上手くやれているのか？3人で連携がしっかり取れているのか？相方2人に我慢させていないか？気持ちを汲み取ることができているのか？など、悩みが尽きない日々を過ごしており、この分科会を受講することでヒントとなるものや、盗めるものがあればと思い選びました。

③2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

基調報告では、放課後児童クラブ運営指針において、もともとは従うべき基準だったものが、各自治体の学童保育所の実情により、従うべき基準が緩和され参酌すべき基準となったことや、保育のプログラム化などが増えつつある学童の今を知る機会になった。
誰のための学童保育なのか?は明白なので、必要としている子どもや保護者が置いてけぼりにされることのない法整備、施策であって欲しいと思った。

特別報告では、コロナ禍での生活によっていまもって制限、我慢があたり前の子どもの姿があったり、被災した地域では、子どもが 1%（聞き取りにくかったので数字が違うかも）しかもどってきていなかったりする現状を聞き、子どもの身体的、精神的なダメージが、今後子どもたちの成長にどんな影響を与えるのかが気になる話だった。

記念講演では、子どもたちの生活が、何かの役に立つ・何かの力が付くなど、『何か』につながるのが大事という時代の流れがあるけれど、決してそうではないこと。大人から見たら無意味な行動が、子どもにとっては大事であることを再認識した。ちょうど丸山先生が引用されていた増山先生の研修を 2 回受講したばかりだったので、すんなりと入ってきた。
最後の方に 30 年、50 年後に学童保育がまともに続いているのか?との丸山先生の問いには、ただただ時代や環境に左右されることなく、子どもにとってのもう 1 つの居場所は、あり続けてほしいと願う。

分科会ではやはり人間関係に悩んでいる方が多く、どちらかと言えば指導員として 2、3 年の経験の若い指導員さんが多い印象を受けた。年齢も経験も自分より上の先生にどう指示をすべきか、どのように仕事を頼むのか、研修になかなか参加しない指導員は、熱意や熱量が足りないのではないか、お互いを知る事やちょっとした会話を楽しみたくても、保育に必要ない、時間の無駄などと言われてしまい会話が続かないなど、各地の指導員さんの苦労話が前半はメインだった。

会話・対話は一緒に働く以上必要なことだから年齢別、経験年数別、男女別の指導員会をしているという地域もあり、研修内容は堅苦しいものではなく、指導員の交流会と位置付けて、雨の日に聞きたい曲や子どもの頃に好きだったおやつをなどを聞いていると聞き、風の子クラブはもっともっと会話・対話が必要だと感じた。

また、前橋育英高校の野球部の監督の講演会を開催した地域もあり、一見関係ないようで学童保育所の運営や組織づくりに通じる何かがある方の講演会も面白いなと思った。（そこは各地域、思うところがあったようで、うなずいて見える方が多かったように思う）

縁あって同じ職場で巡り合えた指導員。お互いに得意不得意があって当たり前。そんな得意不得意なところを、相手を思いやりながらおぎないつつ、子どもも指導員も一緒に成長できる関係を築いていきたい。そうすればきっとその先に、より良い組織が出来上がっているのではないだろうかと思う。

※提出されたレポートは、当会の広報紙やホームページに掲載する場合もあります。あらかじめご了承ください。
※〆切は、11 月 30 日（木）です。常勤専任指導員に手渡し、または、okazakigakudou@yahoo.co.jp までお送りください。